

岡山県の地震

令和2年(2020年)8月

目 次

○岡山県及びその周辺の地震活動（8月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概 況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 2
○地震防災メモ No.176	
南海トラフ地震について	… 3

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

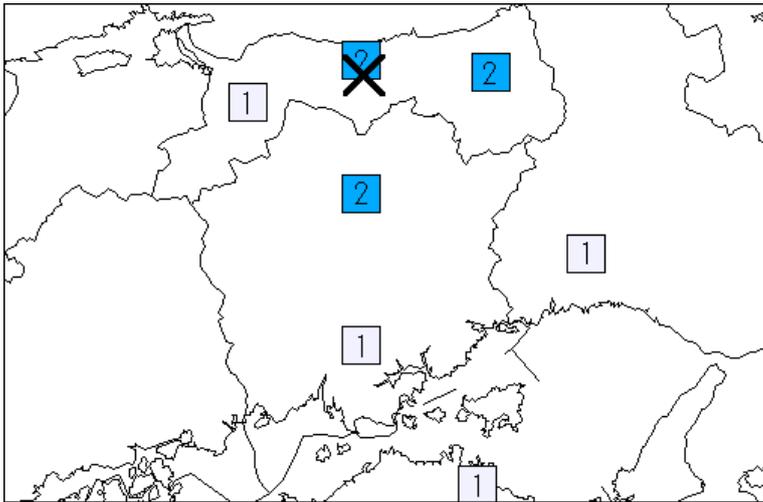
岡山県における震度1以上を観測した地震表(8月)

2020年08月28日00時19分	鳥取県中部	35° 24.6' N 133° 50.5' E 11km	M3.9
----- 地点震度 -----			
岡山県	震度 2: 鏡野町上齋原*, 真庭市禾津*, 真庭市蒜山下和*		
	震度 1: 津山市林田, 津山市小中原*, 津山市山北*, 津山市新野東*, 津山市中北下*, 津山市阿波*, 津山市加茂町*, 新庄村役場*, 鏡野町井坂*, 鏡野町富西谷*, 鏡野町竹田*, 勝央町勝間田*, 奈義町豊沢*, 岡山美咲町西川*, 岡山美咲町久木*, 真庭市下方*, 真庭市豊栄*, 真庭市蒜山下福田*, 真庭市蒜山上福田*, 和気町矢田*, 岡山北区御津金川*, 岡山北区建部町*		

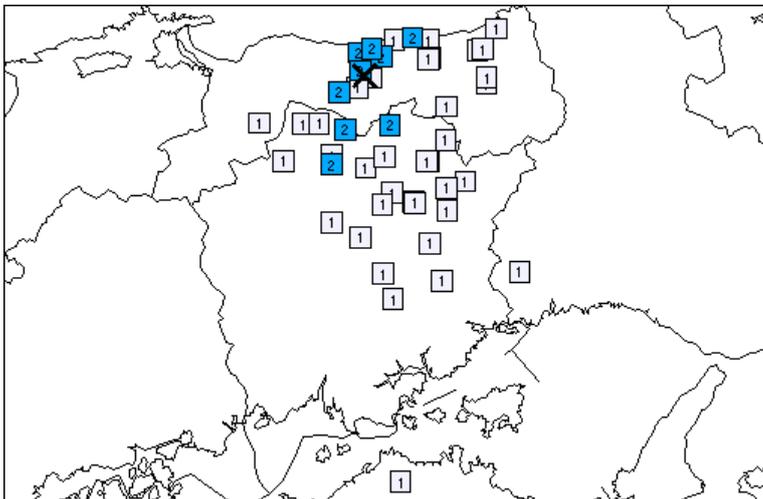
- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。
 なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。
- 2 地名の後に*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点です。
 なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

岡山県における震度1以上を観測した地震の震度分布図(8月)

2020年08月28日00時19分 鳥取県中部の地震
 各地域の震度分布



岡山県及び周辺観測点の震度分布



×は震央

凡例	
震度 7	7
震度 6強	6+
震度 6弱	6-
震度 5強	5+
震度 5弱	5-
震度 4	4
震度 3	3
震度 2	2
震度 1	1

南海トラフ地震について

南海トラフ地震＞

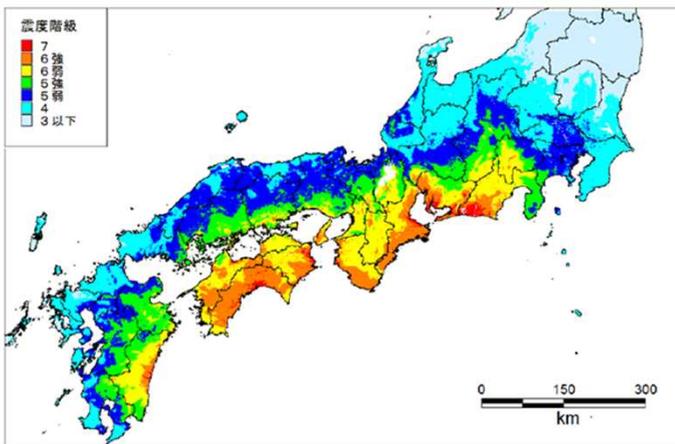
陸のプレートと海のプレートの境界では、接している部分が固着し、海のプレートが沈み込む際にひずみが蓄積して、それが限界に達すると大規模な地震が発生します。日本列島の東側には、陸のプレートと太平洋プレートの接する日本海溝があり、2011年3月には、「東北地方太平洋沖地震」が発生しました。

駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南側の海域及び土佐湾を経て日向灘沖までの海底には、陸のプレートとフィリピン海プレートの接する溝状地形の「南海トラフ」があり、南海トラフ地震※1が概ね100～150年間隔で繰り返し発生しています。前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震（1944年）及び昭和南海地震（1946年））が発生してから70年以上が経過しており、次の南海トラフ地震発生切迫性が高まっています。

南海トラフ地震で想定される震度や津波の高さ＞

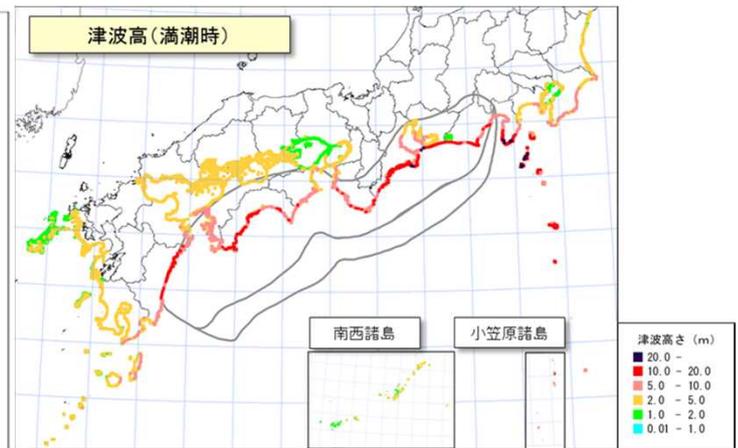
想定される南海トラフ地震の震源域は、私たちが暮らす陸域の下まで広がっています。そのため、強い揺れに襲われることが考えられます。また、ごく短時間で津波が襲来することが考えられます。

政府の中央防災会議は、科学的に想定される最大クラスの南海トラフ地震が発生した際の被害想定結果※2を公表しています。



南海トラフ巨大地震の震度分布

（強震動生成域を陸側寄りに設定した場合）



南海トラフ巨大地震の津波高

（「駿河湾～愛知県東部沖」と「三重県南部沖～徳島県沖」に「大すべり域＋超大すべり域」を2箇所設定した場合）

「南海トラフ巨大地震の被害想定（第二次報告）」（中央防災会議，2013）より

この被害想定によれば、強い揺れについては、静岡県から宮崎県にかけての一部で震度7となる可能性があるほか、隣接する周辺の広い地域で震度6強から6弱の強い揺れになると想定されています。また、津波については、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域に10mを超える大津波の襲来が想定されています。

防災対応を考えるうえで留意すべきこと＞

このような巨大地震が発生した場合、最初の地震だけにとどまらず、その後も活発な地震活動が続き、強い揺れを伴う地震があちこちで頻繁に発生すると考えられます。また、津波が治まって津波警報等が解除されるまでにはかなりの時間がかかり、浸水した地域等に入れるとしてもさらに長い時間が経過してからになると考えられます。

被害想定資料などを見る時、集約された最終結果の数値に目が向き易いと考えられますが、地震発生から被害が広がってゆく過程や緊急避難を終えて応急対応に入る過程、もっと時間が経過し

て避難生活をする過程なども含め、時間とともに移り変わる状況をイメージしながら具体的な対応内容を検討する必要があります。

特に、強い揺れや津波による大きな被害が広域で同時発生している状態では、救命救急対応やその他の応急対応を行うことが非常にむずかしくなるため、自助や共助としてどのような事ができるのかをしっかりと考え、実際の備えを進めることが大切です。

- ※ 1 南海トラフ地震 <https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/nteq.html>
- ※ 2 被害想定結果 http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/nankaitrough_info.html